

神様、どうして



新聞を開くとき、ニュースを聞くときに度々、

「どうして」という叫びを

痛くなるほど自分のうちに感じます。

パレスチナとイスラエルで命を奪われている人々、
ミャンマーで抑圧され続けている人々の状況を見て

「どうして」と。

もっと身近なところでは、ホームレスの生活を強いられて
孤独を味わいながら毎日過ごす人々、
名古屋の入管の収容所で亡くなられた
女性のニュースが届いたときに、

「どうして」と。

こういう「どうして」を生み出す現実を変える力は周りの人々とこの叫びの痛みを分かち合うことによって自分のうちに湧き出てきます。だから、

この叫びに耳を傾け続けることを恐れませんが、
聖霊は其中で働いておられます。

聖霊よ、わたしたちを導き、助けてください。

2

わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいけないのです 使徒言行録 4・20

第二日曜日 (10月10日)

ステップ2 福音宣教使命を受ける

「福音の喜びは、イエスに出会う人々の心と生活全体を満たします。イエスの差し出す救いを受け入れる者は、罪と悲しみ、内面的なむなしさと孤独から解放されるのです。喜びはつねにイエス・キリストとともに生み出され、新たにされます。」

(『福音の喜び』1)



祈りの心の旅を続けましょう。
今週、アメリカ大陸を思い起こします。
神からの必要なめぐみが与えられますように。

御父よ、
私たちは、アメリカとその国々で働くすべての人たちのためにあなたの保護を強くお願いします。宣教者、キリスト者、政治家の仕事が啓発され、あなたの聖なる英知によって、真の共通の利益が生み出されますように。アーメン。

福音宣教の手 ②

人差し指は 『説得』 (persuasion)

説得



説得としての宣教

「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい」(Iペトロ3・15~16)。では、福音宣教の機会が与えられた場合、どのように話せばよいのでしょうか？ 私たちのライフスタイルだけで「世の光(=存在としての宣教)になるということではありません。言葉も必要なのです。質問されたら、いつでも答えることができるように準備しておくことが必要です。「説得」。言い換えれば「なるほど」と思ってもらえるよう準備をすることです。尋ねられる質問によく答えるためには、知識も必要です。予備知識を得るために勉強したり、読書することなどが役に立つでしょう。キリスト教の入門の本、マメ知識のような文庫も活用しましょう。一つの例。例えば、マタイ5・38にある「目には目を、歯には歯を」が有名です。この表現を読んで「キリスト教では復讐が承認されている」と解釈するなら、それは完全に誤りです。この聖句は、世界最古の法律とされるハムラビ法典の中にある「同害報復法」です。この法では、ある人が目を潰されたなら、やった側の目も潰すというものです。この言葉をそのまま捉えてしまうと「復讐」となりますが、続く39節を見ると「しかし、わたしは言うておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。」とあり、イエスは復讐するどころか、抵抗しないように宣言しているのです。

主日の福音から黙想のヒント

持っている物を売り、私に従いなさい… (マルコ10.17-30)

自分の「富」を売って貧しい人々を助け、イエスの歩調にあわせて歩む者は宣教者でしょう。これこそ完全な生き方です。

一緒に祈りましょう (共同祈願)

- ☆ イエスとの出会いに魅せられてイエスのように生きようとする若者たちをふやして下さい。物欲から解放され、ひたむきな心が与えられますように。
- ☆ わたしたちの教会が経済的に困った時でも貧しい人々を忘れませんように。

